



指扇中だより

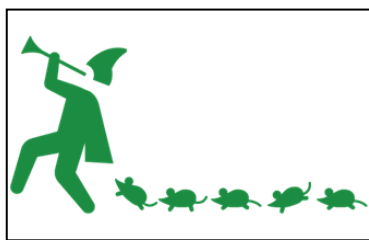


～WE LOVE SASHIOGI!～

〒331-0078 さいたま市西区西大宮 3-31-1 TEL 048(624)6234 FAX 048(624)2479

『君のハートはマリンブルー』

校長 おおこうち のりかず 大河内 範一



私はドッキリ系の番組がちょっと苦手だ。まあ、椅子のクッションに座った時に「ブー」と音が鳴るとか、テーブルに置いてあるコップの水を飲んでみたらお酢だったとか、ニヤニヤ笑って済むような内容ならまだいい。しかし、漫才コンビの片方が相方に解散を持ちかけて困惑させたり、

怪しげな集団に無理矢理連れ去られて恐怖を感じたりというようなレベルになると、心臓がドキドキどころかバクバクしてしまう。最後、出演者が涙を流すような状況になった時には、もはや楽しさは微塵もなくなってしまふ。そして、「人を騙すのは、やっぱりよくないな」と改めて感じる瞬間でもある。

イソップ寓話の『オオカミが来た』では、羊飼いの少年が「オオカミが来たぞー」と嘘をつき、何度も村人を騙しては喜んでいた。しかし、本当にオオカミに襲われて助けを求めたときには誰にも信じてもらえず、羊が全滅してしまったという結末になる。実は少年も食べられてしまうという結末の本もあり、ちょっと恐ろしい。また、グリム童話の『ハーメルンの笛吹き男』では、町に大繁殖したネズミに困り果てた町民が、ふらりと現れた男とネズミ退治の契約をする。男は笛を吹き、ネズミを川に誘導して見事に撃退したのだが、町民は約束を破り、男に報酬を支払わなかった。立腹した男が再び笛を吹いて歩き始めると、今度は町の子どもたちが男の後についていき、二度と帰ってくるのがなかったという、薄気味悪いエンディングになっている。自分が幼い頃、この童話をテレビで見たことがあるが、不気味な旋律に乗って子どもたちが消えていくシーンで、「約束を破ると、とんでもないことになってしまう」と強烈に感じたことを覚えている。

とにかく、嘘をつく、人を騙すなど、他者に対して不誠実なことをすると痛い目に遭うのである。他者が聞くと不快になることを言う、マイナスの内容の発言を繰り返すというのも同様であろう。皆さんも世界各国の童話の教訓を生かし、集団生活の際は、お互いが心地よい気持ちで過ごせるように気を付けてほしい。

人の心を言い表すときに「空より青い」「海より深い」という言葉があるが、心が澄み切った状態は青系の色でイメージされることが多い。青は、空や海、水を連想させるため、爽快感がある。また、安心感や信頼感を与える色でもあるのだ。様々な事柄が巻き起こっている世知辛い世の中ではあるが、どんな時でも、正直に、そして誠実に、マリンブルーのような美しい心で在りたいものだ。